

エントリー名：柳内 祐樹
学校名：近江八幡市立八幡中学校
活動名：生徒の声を出発点にした授業改善
 ～「信頼」と「楽しい」で働きがい再構築～
解決すべき課題：負のサイクル（右図）が生じ、課題が山積。

- 多忙感により授業改善が進まない。
- 教員間に現状に満足する雰囲気がある。
- 学校全体に閉塞感がある。
- 生徒の授業への信頼が揺らいでいる。

目標：★負のサイクルから脱却し、教員の働きがいを再構築し、生徒が生き生きと授業に取り組む学校を実現する。
 ★向上心あふれる教員集団に変貌することによって、閉塞感を打開する。

方針：「生徒の声×教員の協働」

- 「生徒の声」を出発点にした授業改善こそが、生徒の「信頼」を取り戻す。→全校授業評価アンケート
- 「教員の協働」により「楽しい」を生み出し多忙感を解消する。→G-OJT(グルーピングによるOJT)
- 生徒からの「信頼」は教員の働きがいの源に、「楽しい」は働きがいを増幅し、授業改善に前向きに取り組む学校文化を醸成する。→先進校との比較調査で検証

【活動の構想図】

活動内容：活動のポイントおよび工夫と予想される困難

A 全校授業評価アンケート

- 全校生徒に全教科の授業に対するアンケートを実施し、「生徒の声」を出発点にした授業改善で、生徒の「信頼」を取り戻す活動。
- 数値による評価と、自由記述の両方を実施。
- 年間2回の実施。

工夫

→「生徒の声」を色濃く反映する「自由記述」を重視。

予想される困難

- 生徒による評価に抵抗感を示す教員。
- 生徒の不真面目な記述。
- 生徒からの人気・不人気の指標となり、教員間に溝ができる恐れ。

B G-OJT

- 全教員を4名ずつにグルーピングし、「教員の協働」体制を作ることで、授業改善が「楽しい」を生み出す活動。
- 研究推進チームと連携し、研究会として月1回の継続実施。

工夫

→教員各自が授業改善のテーマを決定することで**主体性発揮**。

→似たテーマ同士のグルーピングで、「一緒にやるから安心」や「共に学び合う」といった**ポジティブ効果**を生む。

→「円卓ん」活用による対話の活性化。

予想される困難

- 中学校特有の教科の壁。
- 多忙による公開授業回避。
- 教員間の実践意欲の格差。

項目	☆よかったところ	★お願いしたいこと
国語	話し合いの場が 多いところ。	異議を唱えられ ないところ。
社会	毎日1コマだけ (授業) がある所。	1コマの授業で 深い学びが出来る所。
数学	授業中に前の復習 タイムがある所。	よくわからないうちに 先生に質問出来る所。
理科	くじの番号を引いて 発表出来る所。	発表の場がある所。
音楽	雰囲気がいから しゃべりやすい所。	手拍子や歌を 一緒に出来る所。
美術	個人で発表 出来る所。	発表の場がある所。
体育	先生が話を聞か せてくれる所。	先生が話を聞か せてくれる所。
保健	いろいろな健康 講座がある所。	先生が話を聞か せてくれる所。
英語	先生が話を聞か せてくれる所。	先生が話を聞か せてくれる所。

取組の過程：予想した困難の解決策と活動の進展

①生徒による評価に抵抗感を示す教員。
 →目的を丁寧に提案し、アンケート結果の公表は行わないことや人事評価には反映させないことを確認した上で合意形成。

②生徒の不真面目な記述。
 →生徒への丁寧な趣意説明。
 →教員は、生徒の真剣な記述を読んで、生徒から期待されていることを実感。

③教員間に溝ができる恐れ。
 →記述の表面的な部分でなくその背景に着目することを共有。
 →研究会におけるお互いの工夫や実践を認め合う場面の設定。
 →バランスのとれた年齢構成を実現したグルーピング。
 →ベテランほど実践意欲が高まり、グループをリード（右上図：50代教員の記述）。

①中学校特有の教科の壁。
 →教科横断的なグルーピング。
 →指導法でなく、生徒の姿に着目し、生徒を主語にした研究会の実施。

②多忙による公開授業回避。
 →空き時間を見える化し、共に授業を観合う機会と時間の確保。

③教員間の実践意欲の格差。
 →記述の表面的な部分でなくその背景に着目することを共有。
 →研究会におけるお互いの工夫や実践を認め合う場面の設定。
 →バランスのとれた年齢構成を実現したグルーピング。
 →ベテランほど実践意欲が高まり、グループをリード（右上図：50代教員の記述）。

「信頼」は、生徒を信頼することから
 「楽しい」は、教員間の意思疎通から

○全校授業評価アンケートとG-OJTが相乗効果となって授業改善が前進。
 ○八幡中学校の活動を周りに知ってほしいという機運が高まる。
 ◎自主研究発表大会の実施（右図：研究発表大会二次案内）。
 ⇒県教委や市教委、近隣校などから評価されたことが教員の自信と誇り。
 ⇒アウトプットの間があることでさらなる働きがいが構築される。

活動の成果：働きがいの再構築

- 多忙でも授業改善が推進
 ⇒先進校との比較調査が77%→97%に上昇（先進校 新潟市立白新中学校と同等水準）。
- チャレンジする教員集団へと変貌
 ⇒「生徒の声」に応えようとする、常に向上心を持った教員集団。
 ⇒教員が入れ替わっても、継続・発展する全校授業評価アンケートとG-OJT。
- 学校全体を包む躍動感
 ⇒自主研究発表大会の3年連続開催。
 ⇒地域・保護者・学校が、学校の課題について熟議するサミットの開催。
- 生徒の授業への信頼回復
 ⇒学校評価の生徒の数値が69%→80%に上昇（保護者も）。
 ⇒生徒の授業に対する信頼の記述。
- 生徒も教員も一人一人が輝く学校の実現
 ☆正のサイクルが回り、教員の働きがいが再構築され、生徒が生き生きと授業に参加。
 ☆チャレンジする教員集団が生み出す躍動感がハイブリッド型のオンライン授業を実現。

∞ 生徒の声を出発点にして教員が協働することで、学校が変わる！生徒凄い！教員凄い！